

『老い活』

～歳をとることを楽しむ部活～

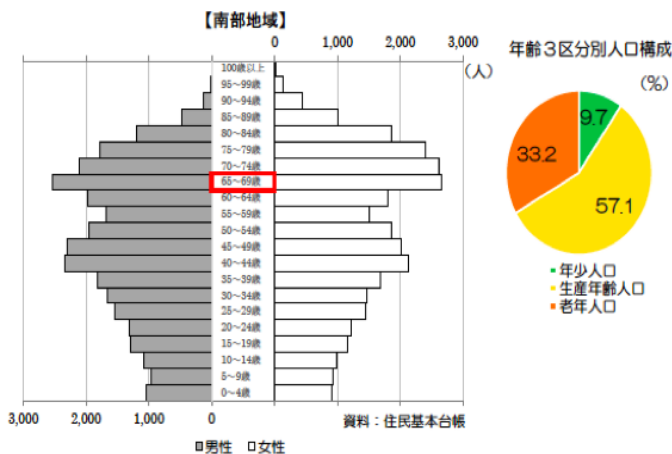
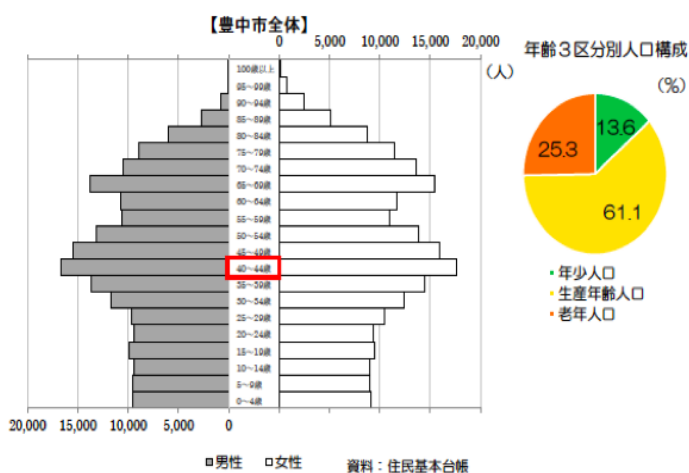
部活動を作る

会員制の bar を作る

このアイデアはもうすぐ高齢者になる大人を対象にしたものである。以前、もうすぐ定年退職の迎える方々にヒアリングしたところ、今の会社から離れたときに自分の居場所がなくなる不安の声、趣味がなく何もすることがないという声をきいた。このアイデアでは退職後に「地域に自分の仲間がいる。」「居場所がある。」、そのような暮らしを創出していくためのものである。

～対象を「もうすぐ高齢者」にしている理由～

豊中市南部地域の人口構成は65歳から69歳の方が多いが、行政が行なっているイベントは高齢者を対象としたものが多い印象にある。そのため、あえて「もうすぐ高齢者」にすることで興味を持ってもらえると思った。また、対象を絞ることで、同じような年代の人の参加率が上がりコミュニティを広げることもできるのではないかと考えられる。

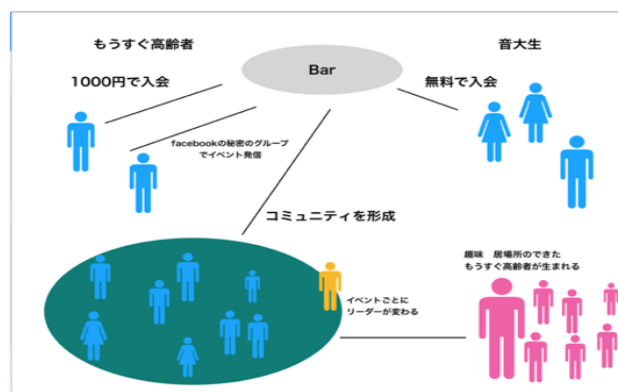


～部活動にする理由～

様々な部活を準備することで、より多くの参加者を募ることができるという点と、参加者が自由な選択ができるため強制感が薄れていくという2点がある。

【部活動の例】

- ①音楽部：地域に大阪音楽大学があることから、学生や教員が地域と交流。
声楽科学生や教員による本格的合唱部。半年ごとに発表会を開催！
- ②料理部：「食」による対象者と地域の交流
 - うどん打ちディスコ：会場をディスコみたいにしてみんなで踊りながら、うどんを踏んで打つ。バブル世代の50代以上の年齢に向けた企画。
 - 庄内の料理人から学ぶ料理教室、お酒に合うおつまみ（煮物）作り教室
- ③人生部：「高齢者」と「もうすぐ高齢者」の交流
 - 高齢者が語る「老後の過ごし方」講座



～barにする理由～

お酒を飲んで少し酔った方が周りとの打ち解けやすいのではないかと。参加者同士が話しやすい環境にすること、またこのことで参加しやすい環境作りにもつながるのでは。このbarを起点にもうすぐ高齢者に向けた部活動の広報も行なっていけたらと考える。

～実現に至るスケジュール、大まかな流れ～

- 1年目：音大生による「老い活」立ち上げ
- 2年目：音大生と参加者の協働
- 3年目：参加者主導のプロジェクト化へ